

# 続・奇跡はある

(20)

徳永 耕一

題字・林田八郎

## 最終章 感謝

いつの頃からか、「マイウェイ」が私の十八番になったが、今年九月、たまたまこの歌を一回も歌う機会を得た。

一回目は娘の結婚式の披露宴、そしてもう一回は草場絢音 経理部長代理の披露宴。

どちらも私が「歌は要らないの？」と誘い水をかけて実現したものだが、おかげでよい思い出になった。

ところで、この歌は「自分の道を行く」という歌詞だが、振り返ってみると私の道は、開業以来多くの人に支えられて ようやく来れた道だった。

右も左も分らず住み始めた諫早市上野町。温かい町民の方々に接して、どれほど安心したことだろうか。

不動産を始めると同時に、まるでリレーのように次々と支援の手を差し伸べていただいた方々。上野町の梅野さん、平山町の松尾綾子さん、鷺崎町の橋本さん、久山町出身の大阪の岩田善子様、当社を信用して社債を引き受けていただいた方々…。

開業間もない頃、実績がないにもかかわらず、大きな案件の融資をしてくれた諫早信用金庫（現たちはな信用金庫）手厚いお取引をいただいたソニー長崎と幹部の方々。（創業時は日本フェアチャイルド）。

中でも家族は、一番の心強い応援団だった。

父は、いつも事務所の入口そばの椅子に座って、私たちの接客の様子を楽しそうに眺めていた。誰よりも私の仕事の理解者だった。母は、人生を通して揺るぎない、絶対的な私の



著者

## Jisco Group

- ジスコ不動産株式会社
- ジスコホテル株式会社
- ジスコ子ども支援株式会社

長崎県諫早市永昌町4-26

TEL | 0957-27-1112 | FAX | 0957-26-1777

味方だった。妹も、東京からいつもきがけてくれて、折々にアパートや土地を買ってくれた。

弟は、開業して間もなく滋賀県から駆けつけてくれて、一級建築士として活躍してくれた。一番の「同士」だ。昨年、四〇周年記念式典を目前に他界したのは残念でならない。

妻徳永真佐子は、開業以来、賃貸案内、経理、クレーム処理など、オールラウンドに働いてくれて、人生でも仕事でも「最大のパートナー」だった。

長男徳永哲生も、開業間もない頃から、建築やマンション販売に全力で頑張ってくれた。近々、名実ともに経営の中核になってくれることを期待している。

社員は、言うまでもなく、なくてはならない存在だ。

「ツイバイフオー工法を勉強したい」と突然会社の門を叩いて入ってきた外山博は、「求道士」然としていた。

「業界の生き字引」とも言うべき鉄屋瑞枝執行役員は、三十八年間、影日向なく働き、賃貸部門を固めてくれた。

島あゆみ常務は、ホテル部門のトップとして、今やマネジメント全般や新規ホテル開拓に敏腕を奮ってくれている。

銀行は、四〇年間を通して常によりきアドバイザーであり、信頼のおけるビジネスパートナーだった。

「信頼」といえば、人生七十六年間、私は一度も人から裏切られた覚えがない。それだけでも、恵まれた人生であり、経営だったと思う。

多くの人に助けられ、支えられ、四〇年間歩いて来れた道だが、道中、それらの方々にどれほどご恩返しができただろうか？また、これからできるだろうか？

私たちはすでに創立五十周年に向かって歩きはじめたが、その道程の中でこのことは大きな課題だ。

ここに、拙い自分史連載を終えるに当たって、これまでお世話になった多くの方々に、あわせて読者の皆様へ、取り急ぎこの紙面をお借りして深く感謝し、厚く御礼を申し上げて、締め言葉とさせていただきます。

〈完〉